

課題番号 : 28-3

研究課題名 : 海外拠点をユニバーサル・ヘルス・カバレッジ等の保健政策研究に活用するための研究

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 仲佐保、栗原健

キーワード : 国際医療協力、海外拠点、UHC、ネットワーク、保健政策研究

研究成果 : 第2年度の各国における主な成果は以下の通りである。

ラオス: 国立公衆衛生院(NIOPH)の海外拠点オフィスが開設2年目を迎え、2017年後半より常勤職員として雇用契約を交わすことができ、「医療技術等国際展開推進事業」のロジ支援等も行われるようになった。NIOPHは保健省下の組織として、保健省関連部局へのレターのラオス語翻訳、提出などにその機能を発揮しており、ラオス側の倫理委員会の申請書提出などにおいても、円滑に進めることができた。しかしながら、依然としてその研究機能には課題があり、2017年度もその基盤を強化すべく「ラオス保健研究フォーラム」(NHRF)などを支援することによって、その強化を図った。

NIOPHとのUHCに関する共同研究については、2017年5月に保険等の保健財政スキームに対する住民意識調査をパイロット調査として実施した。パイロット調査は101名(回答率100%)に対しておこなわれた。現時点で公共の医療保険を持っているものが14名であった。過去3ヶ月以内の急性疾患の罹患がある人は28名おり、その対応は県病院受診が11名、ついで自身が薬局で薬を購入が6名であった。受診時の支払い金額は保険を持っていない群で平均277,758±1,320,480KIP、持っている群で153,571±532,939KIPであった。また、慢性疾患を有するものは19名で、内訳は6名が糖尿病、5名が喘息・呼吸器病変であった。慢性疾患治療のためにかかったコストは1ヶ月あたり保険がない群で平均41,390±151,701KIP、ある群で63,928±149,385KIPであった。医療保険そのものに関する知識は90人が「保険により医療費が減額、無料になる」という知識を知っていたが、10人は知らなかった。その他、シナリオによる病時の対応、各医療施設への意識調査、医療費への意識調査、保険への満足度調査、糖尿病・高血圧の知識の調査をおこなっている。

さらにラオス国における取り扱い医薬品に関する実態調査および、今後UHC拡大に伴う医薬品の供給や流通に関する問題点を抽出できる基礎データの収集を目的として、医療施設の薬剤の供給、管理状況について、中央病院2施設、県病院1施設、郡病院2施設、ヘルスセンター1施設および市中薬局2施設において実地調査を行った。

中央病院1施設の2016年の医薬品年間購入金額は約2億5千万円であった。首都の郡病院1施設の2016年の医薬品年間購入金額は約900万円であった。区分別にみる医薬品の採用品目数は中央病院が500、県病院が400、郡病院が200、保健センターが70であった。医薬品の価格については日本のような薬価制度はなく、各施設で購入価格に利益を上乗せして患者に請求されており、上乗せ率は、首都の施設では5~15%、地方の施設は25%と規定していた。さらに、民間薬局で取り扱っている医薬品には製造元がラオスや周辺国、欧米製のものがあり、患者は価格に応じて医薬品を選択できる体制にあった。今回の調査の結果、現時点において医薬品の不足等の問題は生じておらず、UHC拡大に伴い医薬品の使用量は増加すると推測していたが、現時点において医薬品使用量の顕著な増加は認められていなかった。また、各施設の医薬品購入の仕組みについても現在中央、各地方で医薬品使用量についての情報を集約し、医薬品毎に購入業者の一本化を行い、各施設での購入価格の暴騰を防ぐ試みが行われており、経時的に医薬品使用量を把握することで、UHCの浸透状況を確認できるものと思われた。

カンボジア: 国立母子保健センター(NMCHC)とカンボジアの産婦人科学会が実施している子宮頸がん早期発見、治療に関するプロジェクトを実施中であり、日本企業勤務女性の子宮頸がんに関する知識等について調査した。

ミャンマー: 2018年2月には、研究に関する会議を実施し、感染症関連の情報を収集するとともに、今年度実施された3つの研究に関して、それぞれの担当者と協議を行った。

インドネシア: 2017年には、NCGMの医療展開事業を活用して、スリアンティ・サロソ病院スタッフに対して院内感染対策に関する研修を行った。

Subject No. : 28-3

Title : The study to utilize overseas collaboration institutions of NCGM for the health policy research on Universal Health Coverage etc.

Researchers : Chiaki Miyoshi, Takeshi Kuwabara, Tamotsu Nakasa

Key word : overseas collaboration institution, UHC, network, health policy research

Abstract : The main outcomes in each country are as follows.

Laos: Regarding collaborative research on UHC with NIOPH (one of the overseas collaboration institutions in Laos), a survey on residents' awareness of health schemes such as insurance was conducted as a pilot study for 101 people in May 2017. This study aims to identify Laos PDR people health seeking behavior in the sick and the impact of introduction on social security system on accessibility of health institute, sense of cost of medical care and health seeking behavior. There were 14 people with public medical insurance, 28 suffering from acute diseases within the past 3 months, 11 responses to prefectural hospital visits, and 6 medicine purchases by themselves at pharmacies. The payment amount at the consultation was $277,758 \pm 1,320,480$ KIP on average for the group without insurance, and $153,571 \pm 532,939$ KIP for with the insurance.

There were 19 people with chronic diseases, 6 diabetes, 5 asthma and respiratory lesions. The cost for treating chronic diseases was $41,390 \pm 151,701$ KIP on average in the group without insurance per month and $63,928 \pm 149,385$ KIP in the group with it. Regarding the knowledge related to medical insurance, 90 people knew that "the medical expenses would be reduced and become zero by insurance", but 10 people were not. This is a pilot study with limited number, so we could say without statistical significance, however out of pocket payment seems to be big for some population in present financial system and to access health facility is not easy in any cases even in life threatening disease.

In order to collect baseline data that can extract problems related to the supply and distribution of medicines associated with the expansion of UHC in the Laos and to investigate the supply and management status of medicines in the medical facilities. The annual medicine purchase price for the central hospital facility was about 215 million yen and that of the district hospital in the capital was about 9 million yen. The number of purchasing medicines was 500 for the central hospital, 400 for the provincial hospital, 200 for the district hospital, and 70 for the health center. With regard to the price of pharmaceuticals, there is no drug price system like in Japan, and patients are billed by adding profits to purchase price at each facility, and the additional rate is 5 to 15% in the capital and 25% in the local.

Cambodia: The National Maternal and Child Health Center (NMCHC) and the Gyneco-Obstetric Society of Cambodia are conducting a project for the early detection and treatment of cervical cancer. They studied on the knowledge of the cervical cancer for workers of Japanese companies.

Myanmar: In February 2018, we held a conference on research, gathering information on infectious diseases, and discussed with each person in charge regarding the three studies conducted this fiscal year.

Indonesia: In 2017, we conducted research on measures to prevent nosocomial infection for the staff of the Sulianti-Saroso Infectious Disease Hospital.

海外拠点をユニバーサル・ヘルス・カバレッジ等の保健政策研究に活用するための研究

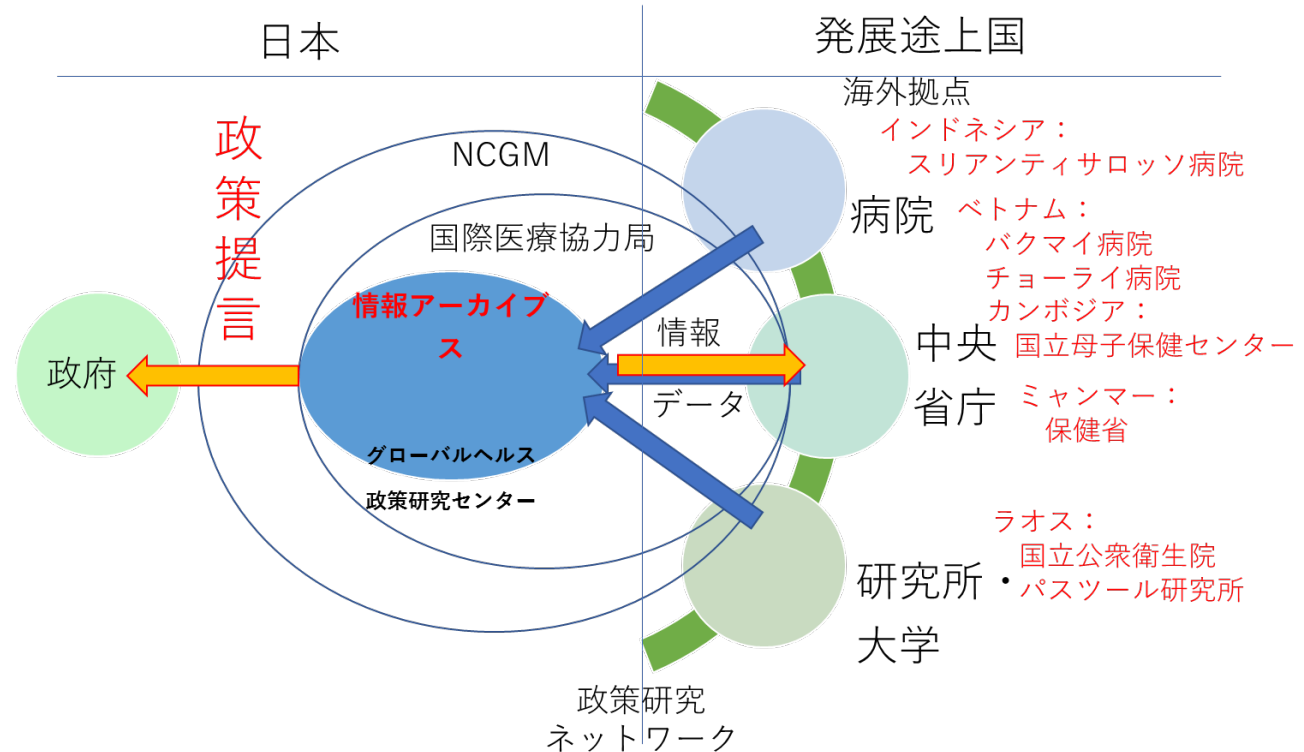
分担研究班：

- 保健政策研究のための情報アーカイブス構築に関する研究（分担研究者：栞原健）
- 発展途上国におけるエビデンスを保健政策提言に繋ぐためのシステム構築に関する研究（分担研究者：三好知明）
- 保健政策提言実施における海外拠点の役割に関する研究（分担研究者：仲佐保）

期待される成果：

1. 保健政策研究を進めていくための情報アーカイブスの構築
2. 海外拠点を活用した保健政策関連データ収集に関する手法の確立
3. 海外拠点を活用したUHC等の保健政策データの収集
4. 政策研究能力向上：データ分析、政策提言策定メカニズムを含む
5. 上記データを活用した政策提言：日本、途上国、国際機関に対して
6. 海外拠点ネットワーク：海外拠点の連携によるデータの共有、情報交換、活用

拠点研究概念図



主な活動・成果(2017年度)

国名	拠点名	主な活動・成果(2017)		
		政策研究能力強化	UHC関連情報収集	共同研究
ラオス	国立公衆衛生院 パスツール研究所	○ フォーラム開催	○	○ 住宅訪問調査 (予備的調査) 医薬品施設調査
ベトナム	バクマイ病院 チョーライ病院			○
カンボジア	国立母子保健センター	○	○ 母子保健関連情報	○
ミャンマー	保健省	○	○ 感染症関連情報	○
インドネシア	スリアンティサロッソ感染症病院	○ 研修実施	○ 感染症関連情報	

課題番号 : 28-3

研究課題名 : 発展途上国におけるエビデンスを保健政策提言に繋ぐためのシステム構築に関する研究

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 三好知明

キーワード : 国際医療協力、海外拠点、UHC、ネットワーク、保健政策研究

研究成果 :

保健政策情報アーカイブス構築のうち、UHC 構築に必要な情報項目作成については初年度、分担研究者(伊藤)と協力して、ラオス海外拠点である国立公衆衛生院(NIOPH)とも協議し、まず、ラオスにおいて入手可能な UHC 構築に必要な情報収集を行った。具体的には、海外拠点である NIOPH とともに UHC 構築に必要な情報項目リスト作成を行い、NIOPH を通じてデータ収集を行った。

NIOPH においては、海外拠点オフィスが開設2年目を迎えたが、オフィス設備、機材ともはよく維持管理されている。2017 年後半より常勤職員として、雇用契約を交わすことができ、「医療技術等国際展開推進事業」のロジ支援等も行われるようになった。NIOPH 海外拠点は複数の事業が活用する第 1 種海外拠点として、拠点の運用に関する指針が整備されつつあり、基本的な拠点の役割が果たせるようになった。

NIOPH は保健省下の組織として、保健省関連部局へのレターのラオス語翻訳、提出などにその機能を発揮しており、倫理委員会の申請書提出などにおいても、円滑に進めることができた。しかしながら、依然としてその研究機能には課題があり、2017 年度もその基盤を強化すべく「ラオス保健研究フォーラム」(NHRF)開催などを支援することによって、その強化を図った。なお、NIOPH 側から 2016 年度海外拠点年報が提出されたが、引き続き、2017 年度についても作成中で、4 月末には完成予定である。

「ラオス国家保健研究フォーラム」(NHRF)の支援:2016 年 10 月 27、28 日に第 10 回 NHRF がサワナケートで開催されたが、2017 年度は 10 月 24、25 日にビエンチャン市において、第 11 回 NHRF が「持続可能な開発に向けての保健研究能力強化」をテーマに開催された。参加者は合同で若年保健や住血吸虫に関する会議が行われたこともあり、18 か国から総数 256 名の参加者があり、昨年度に比べ大幅に増加した。日本からも約 40 名の参加があった。口演とポスター発表は各約 30 題で、この中には国際医療協力局関係の発表が 6 題(口演 2 題、ポスター 4 題)で、うち 4 題は JICA プロジェクトからであった。

研究倫理研修の支援:NIOPH において、2016 年に続いて、2017 年 2 月 14 日から 16 日まで第 2 回研究倫理研修ワークショップが開催され、ビエンチャン市内の保健省、医療機関、保健科学大学等から 30 名の参加があった。講義とケーススタディにより研究倫理に関する基本的な事項について具体的に説明が行われた。2017 年度の本研修ワークショップは開催予定時期に UHC 関連事業(診療報酬セミナー等)が重なり、実施できなかった。

課題番号 : 28指3

研究課題名 : 保健政策提言実施における海外拠点の役割に関する研究

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 仲佐保

キーワード : 保健政策提言、ミャンマー、カンボジア、インドネシア、海外拠点

研究成果

本分担研究班では、特にミャンマー、カンボジア、インドネシアの拠点において、各国においてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ等の政策に関連した研究がどのようにされているか、政策研究に関連した情報収集に関しての研究を行った。

1) カンボジア

国立母子保健センターは、カンボジアにおける母子保健に関しての政策機能を有している。この機能を活用して、母子保健、特に新生児関連の研究の推進をするとともに、UHCに関連したカンボジアの母子保健関連情報を収集する。また、カンボジアにおける最近の傾向である子宮がん関連の情報も収集。

カンボジア国立母子保健センター

- ・第4回年次報告技術報告会実施 (2017. 12)
- ・展開事業においてあらたに実施
- ・拠点を通じての新生児ケアに関しての研究、子宮がんに関しての研修の実施準備。

2) ミャンマー

保健省は、政策担当機関であり、特に保健局保健サービス局は、保健システム関係のUHCの情報を有しており、この情報を収集する。ミャンマー保健省公衆衛生局長 (今後一つに統一される予定) と協議、今後もこれまでの協定のもとに協力を継続することを確認。

・10月リサーチ会議を実施、UHC関連研究としての、病院看護師の職業への満足度調査、保健省スタッフの職業ストレスに関する調査、大学生に対するヘルスプロモーション調査などの協議、倫理審査を実施し、この研究の準備中である。

3) インドネシア

スリアンティサロッソ病院において拠点としての基盤整備、新興感染症関連の研究の実施、UHCに関連したインドネシアの感染症関連情報を収集する。

- ・国際感染症センターを中心として、院内感染対策のための研修を実施、これを評価した。

課題番号 : 28-3

研究課題名 : UHC関連の保健政策研究のための発展途上国における保健データ収集に関する研究

主任研究者名 : 三好知明

分担研究者名 : 栗原 健

キーワード : 受診行動、UHC、保険制度、医薬品、ATCコード

研究成果 : ラオスでは2016年より国民医療保険制度が県単位で開始され、段階的に拡大し、2020年までに100%の導入をめざす政策が実施されている。そこで、住民に対する医療機関の受診状況、医療機関に対する意識、NCDsに関する知識を問う質問紙調査票で、住民のHealth Seeking behaviorの実態を把握すると共に、それらに医療保険の有無がどのような影響を与えているのかを分析し、制度が有効に機能するために必要な要素について検討を行うこととした。2017年度は5月に住民調査のパイロット調査としてカムアン県（国民保険制度未導入）内の4つの村を対象として、ランダムに選択した101世帯に対して質問紙調査を行った。主な結果としては101世帯中、過去3ヶ月で急性疾患を患ったのは27名で、そのうち22名は医療機関を受診していた。うち保険を全く持っていないが21名、何らかの保険加入者は1名であった。また、医療機関を受診していない者は5名で、そのうち1名は何らかの保険加入者で、4名は保険を全くもっていなかった。医療機関受診者が急性疾患治療にかかった合計コストは277,758.6 ± 132,0480.1kip (N=25 保険なし), 153571.4 ± 532939.7kip (N=2 保険あり) 両者に統計学的な差はなかった (P>0.05)。医療費支払い/収入の比率の許容できるボーダーが25%以下とされているが、14患者 (13 保険なし、1 保険あり) が25%以上、9患者 (8 保険なし、1 保険あり) が25%以下であった。これらの結果から、2017年の時点のラオスの国民保険未導入県においては、医療機関受診時に高額な負担が強いられていることが示唆された。同様の質問は慢性疾患に対しても行ったが、慢性疾患の罹患患者は合計19名で6名が糖尿病に罹患しており、うち医療機関を受診しているのは2名、自身で薬剤を購入しているのは4名であった。慢性疾患の医療費に関しては19名中10名がとても高額、9名が高額と回答した。また、5世帯は家族が生命に関わる疾病を罹患しても、医療機関を受診しないと回答しており、UHC達成のためには、それらの層に対する対応が必要あることが示唆された。

薬剤に関する施設調査は、医療の提供サイドである医療施設の薬剤の供給や管理状況について、今後UHC拡大に伴う医薬品の供給や流通に関する問題点を抽出できる基礎データの収集を目的として、MOH (Ministry of Health)、マホソット病院、セタティラート病院（中央病院）、カムアン県病院、セバンファイ郡病院、シサタナク郡病院、ナデウーヘルスセンター、市中ドラッグストアにおいて実地調査を行った。各医療施設の医薬品はMOHで定められており、中央病院では約500品目、県病院では約400品目、郡病院では約200品目、ヘルスセンターにおいては約70品目の医薬品が採用されていた。訪問した前の月よりNIH (National Health Insurance) が導入されたカムアン県の現場担当者からは、患者の増加傾向は認められてはいるが、対応可能な範囲であり、医薬品の不足という問題は表面化しておらず、危惧もない状況との情報を得た。医薬品に公定価格はなく、各施設によって異なっていた。地方（カムアン県）では納入価に約25%が、中央病院では5~10%が上乗せされていた。地方病院の薬価は、中央病院より高い価格で患者に請求されていたが、輸送コスト等の増加が要因であるとの説明を受けた。今回の調査で我々は、マホソット病院の年間の医薬品購入予定数量、およびシサタナク郡病院の過去3年間の医薬品の使用量を入手した。これらのデータをATCコード別に分類し、使用されている医薬品について検討を行った。MOH内で集計されていると説明のあった中央5病院の医薬品使用量（購入量）データの年次推移を観察することで、ラオスの疾病構造の変化および、ラオス国民の病院へのアクセス数増加の指標となり得ると考えられた。また、聞き取り調査を行った薬剤師のジェネリック医薬品に対する評価は、一様に低いことが伺えた。ラオス国内に流通するジェネリック医薬品の品質の確認や、ラオス国民の医薬品使用に関する意識の調査を行うことは、UHC達成に向けての重要な知見になると考えられる。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号：28指3

研究課題名：海外拠点をユニバーサル・ヘルス・カバレッジ等の保健政策研究に活用するための研究

主任研究者名：三好知明

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
該当なし				

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
Out of pocket payment and health seeking behaviour when they are sick in Khammouane Province, Lao PDR	Soundavong K, Ratsvong K, Tomoo Ito, Chiaki Miyoshi, Kounnayong S.	11th National Health Research Forum,	Vientiane, Lao PDR	Oct 2017.
ラオス国における薬剤供給とUHCとの関係、シンポジウム：UHC実現に向けた薬剤に関する諸問題.	井上理咲子、栗原健、瀬戸恵介、三好知明	グローバルヘルス合同大会2017（第32回日本国際保健医療学会学術大会）	東京	2017年11月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。
 ※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。